

## Ⅱ－③地域のセンター的役割

### 公立学校への貢献

#### 附属特別支援学校のセンター的役割の紹介 特別支援教育事業「やまもも教室」

附属特別支援学校は、特別支援教室「すばる」と連携して、附属幼稚園・小学校・中学校のインクルーシブな学校文化の醸成に向けた取組や課題に対して助言を行い、研修の場を提供しています。また、「やまもも相談センター」を窓口として、地域におけるセンター的役割を充実させていきます。

附属特別支援学校では、附属学校園だけでなく、県全域の学校・園の先生方や保護者の方へ地域のセンター的役割を果たすことが求められています。今回は、その中の一つである「やまもも教室」を紹介します。

「やまもも教室」は、香川大学教育学部の先生方のご協力を得て、平成6年9月より実施しています。この事業は、育ちに遅れや偏りの見られる幼児児童とその保護者、担任の先生方を対象に、養育や保育、教育支援の仕方を共に考え、幼児児童の自立を支援していくことを目的としたものです。個別相談会や講演会、座談会など年間11回開催しています。5月は、かがわ総合リハビリテーションセンター作業療法士の大野香織先生を講師に招き、不器用さのある子供の支援について感覚・運動の視点からお話していただきました。参加者からは、「子供に当てはまる事例があったので、さっそく実践してみようと思う。」という感想が多く聞かれました。



大野先生講話



# 附属幼小中への貢献

## 「すばる」での個別指導を通して

附属坂出小中学校では、特別支援教室「すばる」での教員研修を実施しています。「すばる」の教員より「すばる」を訪れる子供の個別検査の結果に基づいた具体的な指導方法について研修を受け、週1回、1時間ずつ計10回の個別指導を行っています。研修を通して、その子にどのような認知特性があるのかについて詳しく聞くことができ、個別指導の最初に「今日の学習内容」を視覚的に示しておくなど、改めて視覚的な支援の大切さを学ぶことができました。

また、「すばる」で研修したことを、通常の学級に取り入れることで、全ての子供が意欲をもって活動に取り組めると実感しました。例えば、普段の学習でも、学習活動ごとに何をするのかを口頭で説明するだけでなく、テレビに映して視覚的に示すことで、子供がやることを理解して活動に取り組めるようになります。このような効果的な支援の方法を全学級で取り入れられるよう校内研修で発信しています。



「すばる」の教員から専門的な研修を受ける小学校教員



通常の学級における視覚的支援の取入

# 特別支援学校、「すばる」の知を通常学級に活かす取組（小学校での活用グッズの例）

## 自分の思いを指して表出させる支援

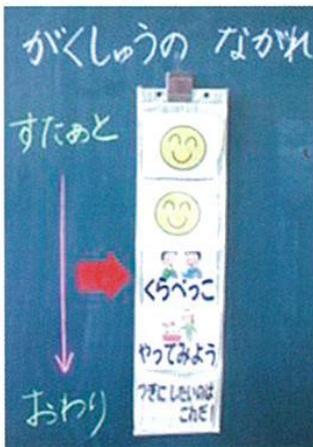


保健室で、痛みを伝える時に指さして伝えます。



トラブルがあった時や不安に思う時など、自分の気持ちを伝えるのは大人でも難しいです。そんな時、役立ちます。

## 見通しをもたせる支援



45分の学習の流れを視覚化することで進行状況が分かり安心します。終わったところはカードを裏返すとニコニコマークが出てきます。



1日の生活の流れも自分で視覚化させることで意識化できます。

得意なことと苦手なことを交互にしたり、タイムタイマーを活用したりして、時間の進行状況を視覚化します。できた時のごほうびシールも自分で貼らせ自信をもたせます。夏休みの生活でも活用できそうです。

## 視覚化して伝える支援



改めたい行動を×で、それにかわる望ましい行動を○で示します。



まじっく・うわくついは、したにいれよう!

上手な片付け方を視覚で示し、パズルゲーム感覚でその通りに片付けます。